

【授業科目】微生物検査学実習Ⅱ Practice of Laboratory Microbiology Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教員への授業公開
森 啓至、井上 孝	2年次前期	必修	1	30	実習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／微生物学、微生物検査学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識はもちろん、微生物検査学実習Ⅰで習得した基本技術をもとに、実際の検体を用いて菌の分離、鑑別同定法を教授する。実習では唾液や尿などを用いて、その検体に含まれる微生物を検出するための技術（無菌操作、コロニーの観察、染色、培養、滅菌、消毒など）を修得して欲しい。本実習を通して、未知なる微生物を同定するための行程を考え実践し、臨床実習から将来の臨床検査の場面で実践できる知識と技術を身に付けることを目標とする。*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。適宜実施する課題については模範解答を解説する。</p>							
授業の位置づけ	<p>大学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 微生物学で学んだ知識を基に微生物の取扱い方、滅菌・消毒方法について説明と実践ができる。                  ② 地の作製、分離培養、確認培養方法などの基本操作について習得する。                  ③ 臨床微生物学で学んだ各種細菌の分離培地上の集落の観察ができる。                  ④ 各種細菌の同定および薬剤感受性試験ができる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>事前学習：これまで学習した微生物を検体別に分類し、使用する培地、生化学的性状を復習し実習に臨むこと。(60分)                  事後学習：実習後はレポートをまとめて提出することで実習内容を復習する。(90分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください</p>							
授業計画	<p>第1・2回 グラム陰性桿菌（ブドウ糖非発酵菌）の同定 薬剤感受性試験                  第3・4回 グラム陰性桿菌（ブドウ糖非発酵菌）の同定 薬剤感受性試験                  第5・6回 未知検体の画線塗抹と培養 検体のグラム染色と抗酸菌染色                  第7・8回 未知検体の画線塗抹と培養 検体のグラム染色と抗酸菌染色                  第9・10回 未知検体の画線塗抹と培養 検体のグラム染色と抗酸菌染色                  第11・12回 未知菌の同定結果発表と結果のフィードバック                  第13・14回 実習確認試験                  第15回 総まとめ</p>						<p>1回～14回：森 15回：井上</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。                  実習ごとのレポート20%、実習試験40%、定期試験40%</p>							
教科書	微生物検査学ハンドブック（三輪書店） 実習プリント（配布）			参考書等		『微生物検査ナビ第2版』栄研化学 『微生物検査学 実習書』医歯薬出版		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>病原微生物を扱っていることを十分認識し、諸注意を守って実習する。実習に際しては体調を整えて感染防御に努める。実習の前後では手洗いを確実にすること。</li> <li>菌の準備、実習日程の都合により予定を変更する場合がある。</li> </ul>							